

登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関 実地視察報告書

○実地視察機関概要

法人名称	学校法人清風明育社
法人代表者氏名	理事長 平岡龍人
主たる事務所の住所	大阪府大阪市阿倍野区丸山通1丁目6番3号
養成業務を行う主たる事務所の名称	清風情報工科学院
養成業務を行う主たる事務所の住所	大阪府大阪市阿倍野区丸山通1丁目6番3号
養成業務を開始する年月日	令和7年4月1日
研修事務を行う主たる事務所の名称	清風情報工科学院
研修事務を行う主たる事務所の住所	大阪府大阪市阿倍野区丸山通1丁目6番3号
研修事務を開始する年月日	令和7年4月1日
養成課程定員数	32名
実践研修定員数	36名
本務等教授者数	9名

実地視察に対する講評

実地視察日：令和8年1月20日（火）

実地視察機関：清風情報工科学院

【全般的事項】

○登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関として、全般的に基準は満たし実施されていたが、当該機関独自の工夫なども見られたものの、一部是正が必要な点があり、引き続き、養成機関として教育課程・組織体制の質の向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 登録日本語教員の養成に対する理念、設置の趣旨等

○機関としての日本語教員養成に対する理念、設置趣旨が示されていた。
○特に「教員である前に一人の人間としての在り方、周囲や学習者との関わり方について学び考えることで、日本語教員としての自身の在り方を考える」という考えに基づき、受講者に自身の目指す日本語教員像を明確にすることを促すことは重要なことであり、質の高い日本語教員を養成することが期待される。

2. 実践研修又は養成課程の内容並びにこれらの履修方法

○養成課程においては必須の教育内容49項目及び目的・対象別による教え方が実施されていることが確認できた。一方、実践研修については、より実態に即した授業内容となるよう、模擬クラス設定の方法や実施方法などを検討し、日本語教師養成に求められる資質能力を養うことが求められる。そのことにより、貴学が掲げる「就職後すぐに役立つ実践的な能力の養成」が実現できると考えられる。
○当該機関においては、受講生が著作権に関する誤った認識を持たないよう授業において教科書のコピーを配付する際は留意点を説明するなど、著作権に留意した適切な対応を行っていることが確認できた。引き続き、著作権に関する受講生への意識づけを行うこと。
○試験ルート等の実践研修のみの受講希望者について、現状は個別に受講の相談を受け、対応を検討している状態であるため、受け入れ体制の整備を図ること。
○シラバスについて、受講生が授業内容をイメージしやすい記載を心がけることが重要であるが、現状では項目の名称が統一されていないなど分かりにくい部分もあるため改善が必要である。

3. 指導者又は教授者の組織

- 養成機関全体としての共通理解を図るため、常勤講師、非常勤講師が参加する定例ミーティングの開催、SNSを使用した教員間の情報共有などが行われていることが確認できた。
- また、受講者アンケートの結果を教員間で検討することにより、振り返りを実施し、より良い教育環境を整備しようとしていることが確認された。
- 比較的経験の浅い日本語教員が多いが、機関内での研修の実施や、他機関に所属した有識者による助言など、サポート体制が機関全体として整備されていることは評価できる。一方で、日本語学校を併設している強みを活かし、教員間の交流や配置換えなどを実施することで互いに学びを深める機会を設け、日本語教員の研鑽の機会を増やすことが期待される。
- 試験ルート等の実践研修のみの受講希望者について、現状は個別に受講の相談を受け、対応を検討している状態であるため、可能な限り体系化をするなど、教職員負担の減少を図ることが期待される。
- 本務等教授者が退職していたが、新たに教員を雇用するなど、審査時と同等の教育内容が提供され、かつ、教員体制及び組織の運用実態について適切な運営をしていることが確認できた。

4. 施設・設備

- 十分な広さの教室が確保されているほか、打ち合わせ等が可能な会議室や共用スペースがあることを確認できた。
- 教室には、1人1台のPCが設置され、実際にICTを活用した授業が実施されていることが確認できた。

5. 登録実践研修機関の場合、教壇実習の実施計画、教壇実習機関等

- 申請書通りに実施されていることが確認できた。

6. 受講者の進路の状況

- 求人情報や就職説明会の提供、修了者との座談会の開催など、貴学独自の積極的な就職支援の状況が確認できた。
- 修了者を貴学の日本語学校に採用している例もあるところ、貴学の強みを活かし、就職を希望する修了生が必ず就職できる体制を引き続き構築することが期待される。

7. その他、特記事項

- 「日本語科授業への養成講座受講生の聴講参加」、「修了生教員による「キャリア相談トークタイム」の開催」、「多様な日本語教育現場で活躍する実践者による特別講義の実施」という現場と受講者を結ぶ特徴的な取組が実施されている。今後とも受講者が日本語教師になる前に、多くの日本語教育の現場を知る機会を充実させることが期待される。